

臨床医学教育学

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	2 人	

2 教員の異動状況

五十嵐 寛（特任准教授）（H11.7.1～17.6.30 麻酔科蘇生科 助手；H17.7.1～23.6.30 講師；H23.7.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度
(1) 文部科学省科学研究費	0 件 (0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件 (0 万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	2 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

- Mizuno K, Igarashi H, Takagi Y, Taniguchi M, Sato S: Can we evaluate the effectiveness of sympathetic nerve block with ICG-NIROT^M and PDET^M? Euroanaesthesia 2011, June 11 -14 2011, Amsterdam Netherland

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

- 日本麻酔科学会第 58 回学術集会、2011 年 5 月、神戸

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 五十嵐寛 日本ペインクリニック学会評議員
- 五十嵐寛 日本医学シミュレーション学会理事・監事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー
日本臨床麻酔学会誌 2 回

9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	0 件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 医学シミュレーション教育の発展と普及

日本医学シミュレーション学会の創立メンバーとして、シミュレーションを用いた医学教育の発展と普及に努めている。特に DAM(Difficult Airway Management)や、高機能型患者シミュレーターを用いたまれな重症疾患の治療トレーニングなど、シミュレーション以外では学ぶことが難しい技術の習得の為の教育の発展と普及に努めており、これを研究テーマとしている。

(五十嵐寛)

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

- 平成 23 年度より、静岡県地域医療再生事業「高機能シミュレータ等によるプリセプタ医育成事業」を浜松医大附属病院シミュレーションセンターで開始した。これは、月一回の頻度で県内医師を対象に高機能シミュレーターなどのシミュレーターを用いて、プリセプタ（研修指導医）を育成する事業である。現在行っているセミナーとして、CVC（中心静脈穿刺）セミナー、HPS（高機能型患者シミュレータ）セミナー、DAM（気道確保困難症例対策）セミナー、SED（鎮静）セミナーなどがある。平成 24 年度以降も継続していく予定である。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

- 海外医療先進国における医学シミュレーション教育は既に必須事項として定着しており、日本においてもその重要性は認識されている。しかし、国内ではシミュレーター（ハード）を手に入れる事ができたとしても、それを活用するノウハウ（ソフト）が足りない事が問題となっている。本講座では、特に医学シミュレーション教育のソフトウエアを発展・普及させていく事を一つの研究テーマとしており、これには長期間の継続性が必要である。

15 新聞、雑誌等による報道

- 「育て医師」、中日新聞、2012 年 2 月 23 日（夕刊）